

## 5. 1852次調査報告

遺跡名	武蔵国府関連遺跡
グリッド	V3-6次
所在地	東京都府中市小幡町1-16-4の一部, 8の一部
現地調査期間	令和2年6月4日～令和2年6月11日
面積	18.3㎡ 遺物出土量 コンテナ1箱(2袋)
検出遺構	溝1条(V3-SD4) [古墳時代から奈良・平安時代] ビット3基 [奈良・平安時代]
調査担当者	西野善勝
調査従事者	大澤一重(府中市遺跡調査会), 石川太郎・扇田芳岡・丸岡祝(トキオ文化財(株))

## 1 調査地区の概要

当調査地区は、武蔵国府関連遺跡の白糸台地域に位置し、京王線多磨壺園駅の南東約150m、九中通りの約20m西に所在する。地形的には府中崖線から約140m北の立川段丘に立地し、遺構確認面はⅢ層である。当地区が所在する白糸台地域は府中崖線に沿って古墳群が確認されており、その北側の台地では古墳時代後期の竪穴建物跡が多く確認されている。今回の調査では、古墳時代にさかのぼる可能性がある溝1条が検出された。

## 2 遺構と遺物

溝1条とビット3基が確認された。

## 溝

V3-SD4 北東-南西に斜行する溝である。両端とも調査区外に及ぶ。規模は、長さ5.5m以上、検出面での幅1m～1.05m、底部幅0.35m、深さ0.3m～0.4mを測る。断面形はU字形を呈する。遺物は出土していないが、周辺で古墳が確認されていることと黒褐色土を主体とする覆土の様相から、古墳時代から古代の所産と考えられる。遺物は出土しなかった。

## ビット

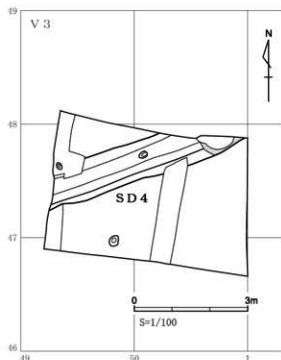
ビットは3基検出された。これらの規模は径約0.2m～0.35m、深さ約0.3～0.6mを測る。いずれも暗褐色土を主体とする覆土の様相から古代の所産と考えられる。遺物は出土しなかった。

## 表土・攪乱からの出土遺物

試掘トレンチ1(SD4を切る攪乱)から土師器の薄手の甕片1点が出土したが、小片のため図化に至らなかった。



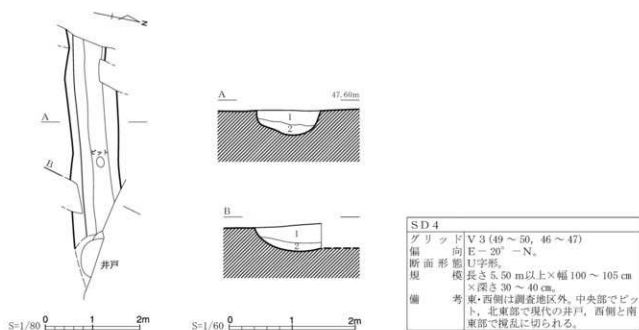
第1852-1図 調査地区位置図(1/5,000)



第1852-2図 調査全体図

## 3 まとめ

当調査地区から確認された溝は、検出部分では直線的な平面形状であったため、古墳の周溝と捉えなかった。しかし、当調査地区の東側近接地（177次調査『概報33』）では円墳の周溝（O94-SZ1）が確認されている。また、今回確認された溝の覆土は、古墳周溝の覆土の主体土として多くみられる黒色系の土であった。したがって、当溝は古墳の周溝でなくとも、古墳時代にかかのぼる遺構の可能性がある。



第1852-3図 V3-SD4実測図

## V3-SD4 土層説明

1. 黒褐色土 III層土を微量混入。ローム（極小粒）を少量、赤色スコリア（極小～小粒）を少量含む。締まり普通。
2. 黒褐色土 III層土ブロック（30～40mm）を少量。ローム（極小粒）を微量、赤色スコリア（極小～小粒）を微量含む。1層に比べ、やや柔らかい。

第1852-4図  
V3-SD4全景（西）